

季節を詠む、  
時流を詠む

四季の歌

美野里短歌クラブ

さわやかな朝の散歩の道すがら桑の実熟れて甘くささやく  
テレビ見て思わず外に出てみたがスーパームーンの月食見え  
母の日にカーネーションをかかえ持ち娘一家はにぎやかに来る  
ふきをむく手につくあくを気にもせず煮こみ美味しくなつかしき味  
朝夕に立ち寄る犬がこの朝はいまだに見えぬ雨強く降る

小川短歌会

ばれいしよの花咲きそめれば啄木を口ずさみいし母を想えり  
み祖らのやすらぎ眠る墓地にきて共に暮らしし在りし日偲ぶ  
コロナ禍で姑の命日誰も来ぬ去年も今年も家族だけだよ  
ワクチンの予約取れたか媪らが野良に出合えば出てくる会話

玉里短歌会

小美玉の野田に住まいて早九年空港の騒音今は気にせず  
高浜の入江に眺むる筑波山男体女体の鋭き二峰  
山は雪檜枝岐川雪解水足すくみたり春走りくる  
もう一度見たいと望む父を乗せ軽トラで行く山間の田に  
電氣生む科学進みぬいつの日かダム湖に沈みし村現れん

寄稿

にぎやかに元気いっぱい蝉の声



菱沼清子	菱沼友江	宇都宮和子	碓谷きえ	白根澤清香	中根良子	石田はる江	根本智恵子	幡谷啓子	正木敦子	鶴町文男	高田久子	松田通喜	石橋吉生	深作茂登子
------	------	-------	------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	-------

みづうみ俳句会

盆支度未来の見ゆる懐かしき  
夕やけに誘われ歌うわらべ唄  
老ゆる程亡き父・母恋し蝉しぐれ  
一輪の赤き芙蓉に狭庭焼ゆ  
はかなくもいきぬきだけの花芙蓉

みのり俳句会

工作に集中する子燕の子  
風鈴の迎えてくれし留守の家  
梅雨じめり玄閑あける戸の重し  
若き女畑にパソル草を引く  
戸を操れば南部風鈴風を呼ぶ

櫻の会

薔薇の花手を加えれば返事する  
この齢になればわかるよ茄子の花  
原爆忌折り込む願い千羽鶴  
絶叫し声裏返る夏の闘  
もう寝ます明日はメロンの食べ頃に

くるみ俳句会

空蟬の鉄柵しかと掴みけり  
吹き抜ける風は大暑の湖の風  
空の蒼負けずと碧の夏の湖  
たたき間の土のカマドのチチロかな  
いづくより香り漂ふ山の百合

玉里俳句会

新樹光双子のパンダ誕生す  
胡蝶蘭老舗味噌屋は代替り  
薫風やスマホ扱ひ児に学び  
竹樋に流すそうめんころころと  
蝸牛つぶさぬように歩きけり

小美玉川柳会

オムレツの卵を割って夢も食べ  
余の辞書にこんな暑さの文字はない  
選手とコーチ縦系に横系か  
川柳の効き目心の艶を増す  
新書体祝い品にてことが足り

榎本喜代子	長島久美子	茅場久子	長島久昭	三村れい子	佐藤清心	島田清香	白根澤千代	立原千代	塚田文江	岡島奈津江	岡代津強	阿久津敏江	石田禮江	岡島禮江	小原エミ	信田睦子	城垣睦子	島田照子	杉山照子	野口初江	矢口友子	斉藤富子	松田通喜	長谷川光男	石井昭夫	江戸忠男	小戸岳悠	阿久津昇久	橋本昇久
-------	-------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	-------	------